

耐久性を向上させたストレッチフィルムの本格販売を開始  
～食品包装工程で熱収縮が不要で、省エネに貢献！

三菱樹脂株式会社

三菱樹脂株式会社(本社:東京都中央区 社長:吉田 宏)は、食品加工工場(プロセスセンター)からスーパーマーケットへの輸送時に求められる耐久性を向上させたポリオレフィン製の食品包装用ストレッチフィルム「ダイアラップ®スーパー i-PC」の本格販売を、本年2月中旬より開始します。本製品は、食品包装工程で熱収縮が不要な省エネ製品です。

当社は、業務用食品包装ラップフィルムのトップメーカーとして、主にスーパーマーケットのバックヤードで使用する太巻タイプ(主に1,000m巻)と、飲食店やホテルなどの厨房で使用される小巻タイプ(100m巻)を製造しています。特に、1990年代後半から、環境対応強化のため非塩素系のポリオレフィン製ストレッチフィルムを業界に先駆けて製造し、「ダイアラップ®」シリーズは業務用ラップフィルムのトップブランドとしてご愛用頂いております。

近年、大手スーパーマーケットでは、より効率的な生産を行うために、調理や包装などの加工作業を、店舗のバックヤードから食品加工工場に集約する傾向があります。加工工場で包装された商品は、店舗までの輸送における揺れや商品の積み上げによるフィルム表面のシワやへこみが生じやすいため、フィルムにハリを持たせることが必要とされています。そのため、ユーザーの多くは、常温で伸縮するストレッチフィルムではなく、熱収縮することで容器にぴったりフィットできるシュリンクフィルムを使用しています。今般、当社が発売するストレッチフィルムの「ダイアラップ®スーパー i-PC」は、フィルムの配合や厚みなどを工夫することで、フィルムのハリを約2割(当社従来品比較)向上させたことによってお客様の要求品質を満たします。また、フィルムを熱収縮させる必要がないことから、製品のサイズダウンが図れ、ゴミの削減に繋がります。さらに、シュリンクフィルムと比べて、熱収縮に伴う設備や工程が不要なため、電力使用量とCO<sub>2</sub>排出量の大幅な削減\*が見込めます。

今般、発売する「ダイアラップ®スーパー i-PC」は、既に大手スーパーマーケットでの品質評価を経て、専用加工工場に採用が決まっています。今後、当社は、スーパーマーケットや食品加工業者、販売店に対して、積極的に営業活動を展開し、同製品の拡販に注力してまいります。

※当社の試算によると、シュリンクフィルム包装に用いる一般的な熱収縮設備(トンネル)を1日12時間、年間360日稼動した場合、設備一台あたり約8,640kwの電力を使用し、年間の電気代が約17万円、CO<sub>2</sub>排出量が約4.2t発生する。「ダイアラップスーパー i-PC」を使用した場合は、この熱収縮工程を省くことが可能です。

【設備条件】出力1200V、消費電力2kwh、電気代20円/kwh、Co2排出量0.484Co2-kg/kwh

<写真>



<ダイアラップ®スーパー シリーズ>

**【製品概要】**

名称 : ダイアラップスーパー i-PC

巻き長さ : 1200m巻

<本件に関する報道関係のお問合せ先>  
三菱樹脂株式会社 総務部 広報室  
TEL:03-3279-3800